

令和４年度 日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校 自己評価票

【本校の目指す学校像】

日本大学の教育理念である「自主創造」にのっとり、校訓として「健康」「有為」「品格」を掲げ、付属校の特色を生かして中学・高校・大学の10か年教育の展望とゆとりをもって、心身ともにバランスのとれた豊かな人間形成と国際的素養の育成を目指す。

【本校の特長及び課題】

具体的な教育目標は、基礎学力の向上、社会性の育成、教科外活動の奨励であり、進路に関しては、日本大学はもちろん、日本大学以外の難関私立大学や国公立大学も視野に入れた教育も行う。今後の課題として、併設中学校及び高校1年次からの特別進学クラス設置に伴い、進学実績の更なる向上が挙げられる。

令和４年度の取組結果

【概況】

魅力的な学校紹介を行う広報活動により、本校への志願者を増やし、経営安定な入学者数を確保できた。充実したカリキュラムにより基礎学力を向上させ、日本大学をはじめ生徒が希望する進学先に入学できるようにサポートした。また、日本大学の教育理念「自主創造」を十分理解し、実践できる生徒の育成に尽力した。以上のことを念頭におきそれぞれの部門で目標達成に向かって様々な取組を行った。さらに、教職員会議・校務運営委員会を中心に会議や委員会で活発な意見交換や評価を行い、PDCAサイクルを実施した。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」, 「高大接続改革」への対応	【新学習指導要領】 - 科目ごとにグランドデザインに基づきルーブリックを作成し、観点別評価の評価方法を周知した。 - 学期ごとに生徒に観点別の評価を自己評価させている。 - 新学習指導要領の観点別評価に従い、指導要録、通知表の書式を変更した。 - 指導要録の「総合的な探究の時間の記録」と「特別活動の記録」の「観点」の欄に記載する本校が定める評価規準となる文書を作成した。 【高大接続改革】 3年ぶりに対面で高大連携教育を行った。各学部と4月から打合せをし、準備を進め実施した。 - 生物資源科学部と科目等履修生制度を含め「高大接続教育」の実施に向けた検討を始めた。	A
教科の目標・指導内容及び評価方法等を明確にした年間指導計画を作成及び適切な実施	各科目でシラバス・ルーブリックに基づき計画的に教科指導ができており、学校自己評価の集計結果では「教科の目標・指導内容及び評価方法等を明確にした年間指導計画を作成し、適切に実施しているか」の項目の平均点が3.38で全体の平均よりも0.15ポイント高かった。	A
I C Tを活用した授業の展開	I C Tを活用した授業に関しては担当者任せになっているところが多く、まだ全体的に活用しきれていない。学校自己評価の集計結果では「I C Tを活用した授業を展開しているか」の項目の平均点が3.06で全体の平均よりも0.21ポイント低かった。	B

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	・いじめについては、定期的な個人面談の実施のほかに、高校・中学校で2回（6月・10月）「いじめに関するアンケート」を実施し、いじめの早期発見に努めるとともに、その結果を踏まえ、迅速にきめ細かな対応をした。 ・いじめの情報をキャッチしたら、対応チームを編成し組織として対応している。いじめ対応チームは、校長、高校教頭、中学教頭、生活指導主任、学年主任、学級担任等で構成する。ただし、校長が必要に応じて、部活動顧問、養護教諭等を加えている。 ・重大事態が発生した場合は、直ちに関係機関に報告している。学校が調査を行う場合は、「日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校いじめ防止基本方針」に基づきいじめ対応チームを中心に、被害生徒・保護者の思いを踏まえるとともに、調査の公平性・中立性の確保に努め、事実関係を明確にしている。 ・いじめ対策として、日本大学におけるいじめ防止対策リーフレット（教員用・家庭用）を活用し、いじめの早期発見及び防止活動に尽力している。	A
基本的な生活習慣の確立	・全教員で共通認識を持ち、基本的な生活習慣の確立に取り組む。 ・遅刻や身だしなみについてはこまめに声掛けをする。	A
SNS問題への対応	・SNS上での問題の大きさを理解させ、防止に努める。 ・中学・高校共に1年次に生徒・保護者それぞれに対応した「サイバー犯罪防止教室」を継続実施する。 ・SNS上での諸問題について様々な情報や防止対策を配信する。	B

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒による自主的な生徒会活動の推進	生徒会の運営や学校行事等の立案・計画・運営等は生徒の自主性によってなされ、生徒会会員生徒の生活の充実に貢献している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マラソン大会が中止となり、今後、マラソン大会に代わり、実施可能な行事も検討する。	B
生徒会活動への理解	学校行事、生徒会各委員会実施などにより生徒会活動への理解を得ている。生徒総会において生徒会の活動報告や委員会活動の報告を行っている。今年度から中学校・高校と分けての委員会活動も実施した。また各学期の始業式、終業式において生徒会タイムで活躍した部活動の表彰や関東大会以上に出場する部活動の壮行会を行っている。	A
部活動の取組	複数の部活動で全国的な活躍（サッカー部、水泳部、ウエイトリフティング部、ソフトテニス部）や関東大会出場があった。サッカー部ではプロ選手を輩出している。	A

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	・学祖山田顕義先生と日本大学、及び日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校の成り立ちについて、大学本部企画広報部広報課より資料を提供していただき、中学1年生と高校1年生を対象に講演会（動画放映）を行った。これによって日本	A

	大学や自校に対する愛校心や帰属意識の高揚を目指した。 ・高校１～３年生に日本大学進学ガイドを配布，進路指導室内に日本大学専用の書棚を設けて学部案内，受験報告書（卒業生からのアドバイス）等を並べているほか，廊下にも日本大学の情報を掲示，資料は持ち帰り自由として書棚に並べている。 ・日本大学各学部説明会を，６月に実施し，高校２，３年生が各自の希望する学部の説明会に参加した。また，説明会の様子を動画撮影し，保護者に配信を行った。 ・高校３年生を対象として７月に学年集会を設け，日本大学への学校推薦型選抜（付属高等学校等）の具体的な手順や対策を伝え，日本大学への進学対策である講習への参加を促した。 ・日本大学個別進学相談会を，第１学期末の三者面談の時期に合わせて高校１～３年生の保護者，生徒を対象として実施し，それぞれの興味，関心に合わせた進学相談を行った。 ・９月下旬に行われる日本大学文理学部体験授業への参加を高校１～３年生に呼び掛け，学校一括で申し込み，当日の引率を行った。 ・進路指導室内に日本大学付属高等学校等統一テスト，基礎学力到達度テスト及びその模擬試験問題，対策問題集を保管して，専任，非常勤問わず教員に開放し，試験対策に役立てている。 ・付属特別選抜の校内選考を基礎学力選抜のセレクション後に実施することで，生徒が一番に希望する学部への入学を増やし，入学後のミスマッチを減少させている。 ・日本大学の各学部から個別で依頼された説明会・体験会・オープンキャンパス等の案内を，Classi で随時配信した。 ・以上の取組を通して日本大学進学を推奨した結果，日本大学への学校推薦型選抜（付属高等学校等）合格者は約４７％（１２月時点）となっている。	
国公立大学，難関私 大学進学者に対する 指導	・高校２～３年生対象に５月中間試験中に他大学各種学校説明会を開催。難関大学の入試・広報担当者から直接大学の説明を受ける機会を設けることによって生徒の興味関心を引き出す機会とした。 ・高校１～３年生で各学年に対応した進路ガイダンス，二者面談，長期休暇前の三者面談を通して進学への意識を高め，長期休暇ではオンラインを含むオープンキャンパスへの参加を推奨した。 ・高校１～３年生で受験ガイダンスを実施し，予備校や塾の担当者による各学年に合わせた講演会や動画配信を行った。 ・高校１～２年生の特進クラスを対象とした特進プログラムで難関国公立・私立大学の学生とワークショップを実施し，生徒の進学に対する興味や関心を喚起した。 ・高校３年生の一般選抜受験希望者を対象に，塾講師による特別演習を実施し，大学入学共通テスト予想問題集の希望者販売も行った。 ・高校３年生の一般選抜受験希望者を対象に，大学入学共通テストのプレテストを行い，校内成績を算出するなどして，学力向上に努めた。 ・一般選抜受験希望者のいる担任を対象に，一般選抜の受験校決定の指導方法等の勉強会を実施した。	B

	・ 中学１～３年生を対象に、高校生（在校生）、大学生（卒業生）、社会人（卒業生や受験業界の方）などから勉強の取組方法や特進クラスに向けての取組、大学での学び、社会人としての取組など様々な話をしてもらうことによって、学習意欲向上や将来の目標設定のきっかけとなる機会をつくった。 ・ 進路指導室内に、図書館で保管期限を過ぎて廃棄対象となった国公立大学、難関私大学の赤本を保管、陳列することとし、書店で購入できないことから高校３年生を中心に利用している。	
--	---	--

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
健康診断の適切な実施	・ 事前に健診業者と綿密に打合せをし、新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら、５月の２日間にわたり中高全学年の健康診断を実施した。実施に当たり全教職員の協力が得られ、生徒の健康状態を把握することができた。 ・ 結果の返却により、生徒自身も健康状態を把握できた。	A
A E D 及びアレルギーに関する研修会の実施	５月に教職員対象のA E D研修会を対面で実施した。同時にアレルギー・熱中症についての研修(エピペンの使用方法やアナフィラキシー・熱中症対応について)も実施した。	A
事故発生状況の報告	事故発生時の状況を迅速に報告し、関係部署が状況を確実に把握することができた。	A
感染症対策	・ 毎日の検温、手洗い、教室の換気を奨励し、新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ・ノロウイルス等の感染防止に努めた。 ・ 衛生面を考慮して、手洗い場に置いていた固形石鹸をポンプ式泡石鹸に変更した。	A

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
委員会活動及び読書指導の活発化	・ 新型コロナ感染症の対策で教員、司書２名で「カウンター」「管理」を実施し、感染予防を徹底して、図書室を運営している。 ・ Classi やN F オンラインを利用して、開室スケジュールや新着案内などを知らせることで生徒たちによりよく情報が伝わるようになった。 ・ 状況に合わせて、図書委員の生徒活動の「広報」として動画で本の紹介する班と図書だよりで本を紹介する班とに分けて実施している。	B
図書室の改革	・ 新型コロナ対策で手指アルコール消毒の徹底、テーブルや椅子の間隔を空けソーシャルディスタンスを保ち、感染予防に徹しながら運営を実施している。昨年度より増設したテーブルについては、パーテーションで区切り、生徒が安心して利用できるように対応している。教員と司書で予防対策、本の消毒管理などを徹底しているため、生徒から安心して通えると好評である。 ・ 参考書・大学赤本を多数購入した。	A

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
本校のP R の充実	・ 本校の魅力をH P で発信するとともに、受験生・保護者が閲覧しやすいように改善をした。S N S を活用した情報発信をした。	A

	・感染対策を実施しつつ、説明会・相談会のイベントを実施した。また外部イベントにも積極的に参加した。昨年と比較して、学校案内で 6,000 部、来場者数で 30,000 人ほど多くなっている。 ・Web を活用した学校説明会を中学で 1 回、高校で 2 回実施した。	
生徒募集活動の充実	・全教職員で説明会・相談会に対応し、安定的な志望者数の確保を目指している。 ・中学入試では志願者増加を目標に活動をしている。 ・中高ともに塾訪問を実施し、約 70 塾に説明をした。	A

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
会議・委員会の活発化	各々の責任者が校務分掌や各種委員会をはじめ、教職員会議や校務運営委員会において、活発で前向きな意見交換を行い、教育内容の充実及び受験生の増加や進学実績の向上が図れるように管理職が指示をした。	A
生徒による学級経営に関する評価アンケートの実施	「生徒による学級経営に関する評価アンケート」の実施目的は、ホームルーム活動での様々な項目の指導が的確に行われ、クラス間で差が出ることによって生徒の不利益が起きないことを目的としている。また、教育目標（校訓や三つの指針）が高いレベルで達成されるための指標となるものにしたいと考えて実施している。	A
安定した生徒募集の実施	令和 2 年度高校入試の際の内申基準を変更した効果が令和 5 年度も続き、コロナ禍においても説明会や見学会での様々な工夫と努力を行うことで、生徒募集において志願者数を伸ばすことができた。	A

※【A 達成できた、B 大体達成できた、C あまり達成できなかった、D 達成できなかった】

新型コロナウイルス感染症に関する対応と今後の課題について

【オンライン授業】 ・令和 4 年度は 4 月から 2 月現在まで、本校では通常授業からオンライン授業への切替えはなかった。ただし、感染状況によっては、オンラインでの授業もすぐに実施できるように準備していた。 ・コロナ禍になってからの約 3 年間で、I C T 機器が少しずつ整備され、授業での教員・生徒のタブレットの利用率が上昇し、生徒の学力向上につながっている。 【感染症対策について】 ・毎朝の検温・体調チェック表を全生徒及び全教職員に配布し、各自健康観察を実施した。検温器を昇降口に設置し、学校でも登校時に検温を実施している。体温が高い者や体調が悪い者には、養護教諭が改めて検温と体調確認を行った。 ・マスクの着用、手洗いの奨励、ソーシャルディスタンスの確保、教室の換気については継続的に指導。また、昼食時のいわゆる「黙食」指導を徹底するため、昼休みの教員による巡回を行った。マスクは、不織布マスクの着用を徹底した。 ・校舎の入り口、教室内にアルコールの消毒液、また手洗い場には石鹸を配備した。また、衛生面を考慮して手洗い場に置いていた固形石鹸をポンプ式泡石鹸に変更した。 ・放課後の清掃後にはアルコールを用いて机・椅子・ドアの把手などの消毒を毎日行った。 ・日々状況が変化する中で、校医・学校薬剤師から最新の意見・情報を取り入れ、その都度対応策を講じた。 ・感染者、濃厚接触者、風邪症状のある体調不良者は出席停止扱いとし、感染症対策を徹底した。 【学校行事】 ・新型コロナウイルス感染症影響下でも、多くの行事を中止することなく、変更して実施した。なお、中止となった主な行事は、10 月の小学生との交流会、1 月の百人一首大会とマラソン大会等であった。

- ・変更して実施した主な行事として、4月の中学新入生オリエンテーションは内容を変更して実施、新入生歓迎会は放送にて部活動の紹介などを行った。4月の中高6学年の校外学習や5月の中学授業参観は感染防止対策を徹底して、実施をした。

6月の文化祭（日藤祭）については新型コロナ感染防止対策を徹底した上で、生徒と保護者のみで実施した。全校生徒を2日間の実施日のどちらか1日参加とし、参加人数を分散して実施した。新型コロナ感染症対策として、事前にGoogleフォームで公演予約を取り、人数制限を設けた形で各公演を実施した。今年度、初めての試みとして、開会式にプロジェクションマッピングを実施した。当日まで生徒には内密で進め、多くの生徒が驚きと感動を味わい、中には泣いている生徒もいた。また、オンライン形式で動画発表も実施し、学校ホームページ上にリンクを貼り、多くの視聴があった。例年とは異なる形式で生徒同士のみならず、外部に対しても、良い学校PRにつながった。

7月の水泳球技大会は中止し、スポーツレクリエーション大会を実施した。9月の高大連携教育や10月の職業学習・職業体験も感染防止対策を徹底して、実施をした。10月の修学旅行は、高校2年生はカナダを北海道に行き先を変更して、中学は京都・奈良・広島は変更せずに実施をした。11月の体育祭は初めて中学校と高校を分けて実施した。そのため、多くの種目に参加できる充実した体育祭となった。

- ・高校の推薦入試は、検温器の設置、手指消毒のお願いや面接官と受験生との距離を広くとるなどの対策を行った。また、中学入試は、検温器の設置や手指消毒のお願いなどの対策を行った。
- ・今後、実施予定の高校一般入試、中・高新入生説明会、中・高卒業式においても座席間隔の確保、検温、消毒、出席・参列者などの人数制限などの対策を講じての実施予定である。

【部活動について】

- ・本校独自の新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのガイドラインを策定し、通常授業であっても感染状況や生徒の状況に合わせた段階的な部活動の実施や、活動時間及び週当たりの活動回数を決めて活動している。

【その他として】

- ・進路指導関連の説明会や講演会、生徒募集関連の学校説明会や入試説明会については、人数を制限し前年度同様に回数を多くして実施をした。
- ・図書室では換気の徹底、入室時の手指アルコール消毒の徹底、テーブルや椅子の間隔を空け、ソーシャルディスタンスを保ち、感染予防に徹しながら開室している。教員と司書で予防対策、本の消毒管理などを徹底している。また、生徒主体の「カウンター」「管理」「広報」班分けについて、「カウンター」「管理」を中止し、教員、司書2名で「カウンター」「管理」を実施し、感染予防を徹底して、図書室を運営している。
- ・今後の課題は、生徒の学習活動をはじめ教科外活動に対して、感染対策を考慮しながら生徒の活動を止めることなく、生徒と教職員が創意工夫して取り組めるかが、今後の本校の更なる成長の鍵であると考えている。

令和5年度の取組目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
新学習指導要領を踏まえた上での授業・評価の改善	令和4年度からで高校1年生で新学習指導要領に基づいた観点別評価を実施するので、実施後、問題点を上げ改善していく。	問題点の検証（随時） 改善策の検討（随時）
生徒による授業評価アンケート結果に基づく授業改善	担当者ごとに問題点の改善策を検討。研修やサテライト講座等に積極的に参加するようにする。公開授業を実施し、教員間での情報共有を行う。ICTをより活用できるように研修会等に参加し生徒の授業理解につなげるようにする。	研修の案内（随時） サテライト講座の案内（4月） 公開授業の実施（各学期）

「高大接続改革」への対応	・高校1年生対象に各学部との「高大連携教育」を実施。令和5年度より文理学部にも協力を依頼する。 ・生物資源科学部との科目等履修生制度の導入を含め「高大接続教育」の実施を検討する。	高大連携教育（9月） 高大接続教育の検討（随時）
--------------	--	-----------------------------

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	・年度始めに教職員・生徒・保護者に対して、学校の取組と姿勢について周知する。適宜、ホームルームを通じて注意喚起を行う。 ・定期的な個人面談を実施し、いじめの兆候の把握に努める。 ・いじめアンケート調査(6月・10月)を実施し、いじめの兆候の把握に努める。 ・インターネット上(SNS)でのいじめ防止について「サイバー犯罪防止教室(生徒及び保護者対象)」の実施時に具体的な事例を紹介してもらい、注意喚起を行う。 ・部活動も含め、保護者からの相談に対しては、事実関係を早期に確認し、初期対応の遅れがないように教員間の連携を強化する。複数での対応を遵守し、組織的な対応の徹底を図り、詳細に聞き取り内容の記録を残す。 ・スクールカウンセラー、学級担任との情報共有や連携を図る。必要に応じて、警察等の専門機関へ報告・相談を行い、情報を共有する。 ・年度始めに「日本大学はいじめを絶対に許しません(教職員用)」リーフレットを活用し、いじめ防止対策への取組の周知徹底を図る。 ・保護者会において、同様のリーフレット(保護者用)を配布し、家庭への啓発を強化する。ささいな情報でも軽視せず問題発生の兆候がないか、保護者への確認を取り、家庭との連携の下、学校が早期に事実関係の調査確認を行うことを説明する。 ・スクールカウンセラーとの定期的な情報交換を実施している。必要に応じて、学級担任や保護者に対しても同様に情報共有を行う。	4月 各学期1回以上 6月・10月 5月 通年 通年 4月 4月 年2回
生活指導の共通認識	・全教職員が共通認識を持って生徒全員もしくは一人一人の対応と指導を行うこと。 ・生徒指導には教員個人で対応するのではなく、チームで対応する。 ・教職員の情報共有と連携を徹底する。	通年

課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒による自主的な生徒会活動の推進	生徒による生徒会行事等の計画・立案・運営等，積極的に取り組める体制をつくり，生徒の意見が反映できる活動を行う。年間を通じて，全校を３色に色分けし，行事ごとにポイントが獲得できる年間色別ポイント制を実施し，更に行事を盛り上げる。行事終了後にアンケートを取り，次年度の活動に活用する。	年間を通して委員会活動を活発に行い，学校行事の見直しや部活動の活発化に取り組む。年間色別ポイントとして各行事での獲得ポイントを決め，行事を盛り上げる。各行事終了後にClassiにて生徒アンケートをとる。

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	・学祖山田顕義先生と日本大学，自校について学ばせ，愛校心を養うとともに日本大学への関心を深めさせる。 ・高校１～３年生の各学年に応じて学校推薦型選抜（付属高等学校等）を説明し，合わせて日本大学の魅力を伝える。 ・高校２，３年生では学部説明会を実施し，各学部の内容を知らせ，進学意識を高める。 ・オープンキャンパスなど日本大学に関する情報を積極的に連絡（配信）し，生徒が日本大学各学部へ足を運ぶ機会を設け，その魅力を伝える。 ・進路講演会において，日大合格決定者や日大進学者から大学の魅力や受験情報を話してもらう。	・進路ガイダンス，講演会（４月） ・日本大学進学ガイドの配布（４月） ・日本大学各学部説明会（６月） ・日本大学個別進学相談会（７月） ・日本大学生物資源科学部学科説明会，見学会（７月） ・日本大学生物資源科学部学生との交流会（１２月） ・オープンキャンパス参加奨励（７月・３月） ・進路指導室内の資料の充実（通年） ・日本大学各学部の情報配信（通年）
日本大学進学推奨と，国公立大学，難関私大学受験者への指導	・中学では基礎学力向上のため，日々の学習時間を確保させる。 ・中学では職業学習や職業体験などを通して，職業観を育成し，進路意識を高める。 ・中学生に高校特進クラスの魅力を伝える。 ・高校では進学のための学力向上と，進路観育成のため説明会や講演会を実施する。 ・高校３年生では模試やガイダンスなど大学受験のための環境づくりをする。 ・横浜国立大学・横浜市立大学の進学者増に向けた取組として，放課後講座に大学別受験講座の設置を提案する。	《中学》 ・進路講演会・面談・実力テスト（各学期），職業体験（１０月） 《高校》 ・進路動向調査（９月），オープンキャンパス参加推奨（７月・３月），面談・進路説明会・外部模試受験奨励（各学期）

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒の健康状態の把握 教職員の保健衛生に関する意識の向上	・全学年健康診断を実施し、健康状態を把握する。 ・全教職員対象にAED・エピペン研修会を実施する。	健康診断は5月、教職員対象の研修会も5月に実施
感染症拡大防止，事故防止	・不織布マスク着用，手洗い等と呼び掛け，感染症予防に努める。 ・生徒保健委員による感染症や熱中症，食中毒等に対する予防ポスターの作成，掲示を行う。 ・保健室から『ほけんだより』を発行する。 ・学校保健安全法施行規則に従い，出席停止期間を厳守するよう呼びかける。 ・事故報告書と感染症罹患届の提出の徹底を図り，状況把握に努める。	年間を通じて実施

図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
図書委員を主体とする委員会活動及び広報活動の活発化	図書委員を中心とした委員会活動を積極的に実施していく。図書だよりや本の紹介動画など図書の広報活動を生徒が主体となって行っていく。	令和5年4月～令和6年3月

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
本校PRの充実	・学校案内を改善し本校の教育目標や魅力を伝えていく。 ・学校説明会はSNSやWebを併用して実施し，受験生・保護者に本校の良さを伝えていく。	・中学校リーフレット4月発行 ・学校案内6月発行 ・学校説明会 随時 ・入試説明会11月
生徒募集活動の充実	・引き続き全教職員で説明会・相談会に対応し，安定的な志願者の確保と，受験生の学力層の向上を図る。学内で実施する説明会等は生徒も参加し，本校の教育目標や魅力を受験生・保護者に実感してもらう。	・5月中学校学校説明会 ・6月中学校学校見学会 ・6月中学校塾対象説明会 ・7，8月オープンスクール／校舎内見学ツアー ・9月中高塾訪問／高校塾対象説明会 ・11月中高入試説明会 ・3月中学校入試報告会

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
計画的な教員採用	退職教員の補充については，計画的に行われている。また，産休・育休・時短に対する担任補充は常勤講師を採用している。	4月採用で対応する。

新体育館の建設	部室棟として利用していた１・２号館の解体跡地に、新体育館の建設計画を行う。	令和３年度より検討している。
---------	---------------------------------------	----------------

中長期的目標の取組結果

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
A L / I C T 教育の推進	プロジェクター・スクリーンの設置教室を増やし、中学全クラスと高校１年の全教室に設置した。総合的な探究の時間や講演会でオンラインでの講演・プレゼンテーションなどに活用した。授業に関しては担当者任せになっているところが多く、まだ全体的に活用しきれていない。学校自己評価の集計結果では「I C Tを活用した授業を展開しているか」の項目の平均点が3.06で全体の平均よりも0.21ポイント低かった。	B

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
多様化している生徒の適切な指導	・I C Tを活用し、教職員間で多様な生徒の情報共有を合理化する。 ・発達障害や虐待など、特別に配慮の要する生徒の情報などを教職員間で適切に共有する。	B
校内美化	・清掃の際にチェック項目を設定して通常の清掃をきちんと行う。 ・大掃除の際には、更に細部まで徹底して清掃を実施する。 ・部室に設置した分別用ゴミ箱を活用し、整備委員会及び部活動委員会と協力してゴミの分別を徹底する。	A

課外活動（生徒会）

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒会活動への理解	生徒総会の実施や各委員会の実施、情報発信のための掲示、放送等による連絡事項の徹底などにより理解を深めることができた。部活動の活躍を各学期始業式や終業式後の生徒会タイムなどで紹介した。高校サッカー部が全国高校サッカー選手権大会に出場し、全校で応援しようと呼び掛けた結果、中学生、高校生共に多くの生徒がスタジアムに集まり、全校を上げて応援することができた。	A

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学進学希望生徒の指導	・高校２，３年生の生徒を対象に、日本大学各学部説明会を行い、希望する各学部の理解を深めた。 ・高校１～３年生の希望する生徒、保護者を対象に日本大学個別進学相談会を行い、各学部学科への理解を深めた。 ・ホームページの動画紹介やパンフレットの配布などを通して、興味や関心が持てるよう指導を行った。 ・日本大学進学ガイドを高校１～３年生に配布、進路指導室内には日本大学専用の書棚を設けて閲覧自由とし、多くの生徒や保護者が進路指導室を利用した。 ・高校３年生では１学期中に二者面談、三者面談、８月下旬に付属特別選抜に関する面談、１０月上旬に基礎学力選抜及び国公立併願に関する面談を実施し、そ	A

	の都度、意向を確認しながら進路指導をすることで、入学後のミスマッチを減少させている。 以上の取組を通して日本大学進学を推奨した結果、日本大学への付属推薦合学者は約42%となっている。2022年12月現在で、高校3年生在籍581名中277名の日本大学進学が決定している。	
国公立大学と難関私立大学受験者指導	- 本校教員や外部講師による進路講演会（説明会）を通して、進学への意識を高め、長期休暇ではオープンキャンパスへの参加を推奨した。 - 進路指導室内に、図書館で保管期限を過ぎて廃棄対象となった国公立大学、難関私立大学の赤本を保管、陳列し、書店で購入できないことから高校3年生を中心に利用している。 - 学部模試受験を推奨し、大学入学共通テストのプレテストを校内で実施するなど、意識を高めた。 171名が大学入学共通テストに出願した。	B

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒自身の自己管理の推進	- 体調が悪い場合は登校しない。 - 担任と連携して教室の衛生状態を確認し、毎日の検温、換気、手洗い不織布マスクの使用などの徹底を図った。	A
海外修学旅行のための麻しん風しんの予防接種	次年度の海外修学旅行が中止となったため未実施。	—
災害時における緊急対応	- AEDの使用方法など、研修を通じて周知した。 - 防災備蓄品の在庫を管理し、非常時に備えている。	A

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
利用者数の増加	放課後平日は18時30分まで、土曜日は16時30分まで自習室としてスペースを開放した。11月からは高校3年生の特別授業期間中の利用もあり、その結果自習室としての利用者数が増加している。	A

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況																																													
中学校の志願者増加	①学校説明会やSNS, Webを活用した説明会で本校や日本大学の魅力を伝えた。 ②志願者数 ・志願者 <table><tr><td></td><td></td><td>男子</td><td>女子</td><td>計</td></tr><tr><td rowspan="3">昨年度</td><td>第1回</td><td>130</td><td>76</td><td>206</td></tr><tr><td>第2回</td><td>158</td><td>94</td><td>252</td></tr><tr><td>第3回</td><td>142</td><td>79</td><td>221</td></tr><tr><td rowspan="3">今年度</td><td>第1回</td><td>120</td><td>91</td><td>211</td></tr><tr><td>第2回</td><td>231</td><td>101</td><td>332</td></tr><tr><td>第3回</td><td>140</td><td>76</td><td>216</td></tr></table> ・受験者 <table><tr><td></td><td></td><td>男子</td><td>女子</td><td>計</td></tr><tr><td rowspan="2">昨年度</td><td>第1回</td><td>123</td><td>74</td><td>197</td></tr><tr><td>第2回</td><td>138</td><td>81</td><td>219</td></tr></table>			男子	女子	計	昨年度	第1回	130	76	206	第2回	158	94	252	第3回	142	79	221	今年度	第1回	120	91	211	第2回	231	101	332	第3回	140	76	216			男子	女子	計	昨年度	第1回	123	74	197	第2回	138	81	219	A
		男子	女子	計																																											
昨年度	第1回	130	76	206																																											
	第2回	158	94	252																																											
	第3回	142	79	221																																											
今年度	第1回	120	91	211																																											
	第2回	231	101	332																																											
	第3回	140	76	216																																											
		男子	女子	計																																											
昨年度	第1回	123	74	197																																											
	第2回	138	81	219																																											

		第 3 回	122	74	196	
	今年度	第 1 回	109	86	195	
		第 2 回	198	79	277	
		第 3 回	111	57	168	
	③第 1 回女子と第 2 回男子の志願者が大幅に増加した。					
高等学校の志願者数の安定化	①学校説明会や SNS , Web を活用した説明会で本校や日本大学の魅力を伝えた。					B
	②募集人数の適正化を図るため、昨年度の基準を適用した。					
	③志願者数					
		推薦入試	一般入試(専願)	一般入試(併願)		
	昨年度	188	8	926		
	今年度	169	24	682		
	④公立中学校の 3 観点別評価の影響で評価「5」が取りにくい影響が出ている。					

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

中長期的目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
AL／ICT教育の推進	プロジェクター・スクリーンの設置教室を増やす。 活用できるICTツールを随時教員に案内する。 公開授業において、ICTを活用した内容を実施。高校1, 2年の総合的な探究の時間で年間計画に基づいた授業を行い、ICTを用いたプレゼンテーションを行う。	プロジェクター・スクリーンの設置 ICTを活用した公開授業の実施（各学期） 総合的な探究の時間でプレゼンテーションの実施（9月, 2月）

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめや暴力・体罰のない学校を目指す。	何かあったら信頼できる大人（教員）や友人に話せる環境をつくり、相談できる体制を整える。 いじめを見逃さないように生徒の様子に注意を払う。 いじめの防止教室・講演会を実施し、啓発教育を行う。	通年

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
通学マナーの向上	定期的な通学路の巡回や登校指導、下校指導を行う。 通学委員会と協力して、生徒の目線からも通学マナー向上に努める。	通年

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学進学希望生徒の指導	・基礎学力到達度テストに向けて学力向上を図る。 ・日本大学の魅力を生徒に伝えるため、情報に触れる機会を設ける。 ・説明会やオープンキャンパスへの参加を推奨し、具体的な志望理由を持てるようにする。	・基礎、基本を徹底させるために模試や実力テストの復習を徹底させる。（随時） ・学部説明会、進学相談会を実施する。（随時）

		・オープンキャンパスへの参加を推奨する。(7月・3月) ・進路指導室内の資料を充実させ、生徒に情報提供する。(通年) ・日本大学進学ガイドや各学部パンフレットを配布する。(通年)
国公立大学と難関私立大学受験者への指導	・大学入学共通テスト、個別入試に向けて学力を向上させる。 ・各大学の説明会やオープンキャンパス参加を通して志望校に進学する意識を高め、具体的な志望理由を持てるようにする。	・進路ガイダンスを実施する。(随時) ・外部模試の受験を推奨する。(随時) ・大学入学共通テストのプレテストを実施する。(12月) ・各大学の説明会を実施する。(5月) ・オープンキャンパスへの参加を推奨する。(7月・3月)

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒自身の自己管理の推進	・体調が悪い場合は無理して登校しない。 ・学校全体で予防のための手洗い、マスク着用等を励行し、予防の意識を高める。	年間を通じて実施 (特に新型コロナウイルス収束までの間、インフルエンザ流行期)
海外修学旅行のための麻しん風しんの予防接種	高校1年生からワクチン接種回数の調査を行い、回数が不足している生徒に対して個別に呼び掛ける。	高校1年生対象(11月調査実施)
災害時における救護ブースの確保	・緊急時に備え、防災訓練時に救護ブースを設置する。 ・備蓄品の在庫を確認する。	春・秋季防災訓練時に実施 秋に備蓄品の在庫を確認する。

図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
読書の推奨	・「図書だより」の発行、図書室利用状況の報告や新刊図書のお知らせにより図書室利用を更に啓発していく。 ・希望図書購入の呼び掛けをしていく(生徒だけでなく教員に対しても行う)。	・図書室利用状況については引き続き職員会議にて報告する。 ・新刊図書のお知らせ方法を委員会で検討させる。
外部研修会への取組	外部研修会へ積極的に参加し、様々な情報を取得し、本校図書室業務に生かしていく。	夏期の「日本大学図書館業務研修会」に参加し、他の付属校との情報交換会に参加する。

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
中学校志願者の増加 学力層の向上	・ 日本大学の付属であり，大学が総合大学であることを明確に伝え，将来の進路選択の幅が豊富であることを理解してもらう。 ・ 中学校を卒業した生徒の活躍や大学の合格実績を示し，本校の魅力を伝える。	・ 5 月学校説明会 ・ 6 月文化祭／学校見学会 ・ 7， 8 月オープンスクール／校舎内見学ツアー ・ 11 月入試説明会 ・ 3 月入試報告会
高等学校入学者数の安定化	・ 中学校の取組方策と同様に，総合大学の付属である良さを伝える。 ・ 進学実績を伝え，進路選択が豊富であることを伝える。 ・ 神奈川県の高校入試は内申点を重視する方式であることから，内申点に関する成績基準の緩和や基準を再検討する。	・ 6 月文化祭 ・ 7， 8 月校舎内見学ツアー ・ 11 月入試説明会